



結

yui

2018. 11. 17 No.84

発行「憲法9条の会つくば」

〒305-0005

つくば市天久保 1-10-12 1-401

TEL 080-5888-7824

Fax 029-856-2286



<http://peace.arrow.jp/tsukuba2/>

憲法9条の会つくば設立13周年記念のつどい お越し頂きありがとうございました！



「13 周年記念のつどい」に参加してくださった皆様に感謝いたします。また企画の段階から裏方として奉仕してくださった皆様に感謝いたします。「安倍9条改憲NO！ 3000万署名」

は皆様の日々の署名活動により 2018.11.5 現在 3621 筆に達しました。改憲を断念するまで署名活動を継続しましょう。

安倍内閣は、辺野古基地建設に多くの沖縄の住民は反対していても、沖縄の住民の声を聴かずに基地建設を進めています。このことから安倍内閣は国民の反対の声を聴かずに憲法9条改憲を国民投票に推し進める恐れが大いにあります。これからも改憲の動きをも注視すると共に、憲法9条改憲を進める動きに反対の声を上げていきましょう。

「思いやり予算パート2」では多くの国民の税金が、在日米軍のために使われていることを知りました。災害の被災者仮設住宅は 300 万円以下

の制約があるのに在日米軍家族宅は 5500 万円とあり、この国の為政者はどこを覗いて政治をしているのかと改めて考えさせる良い映画でした。

実行委員長 阿部眞庭



戦後 73 年もたつのに、いまだ米軍が駐留していることに怒りを感じず。米軍基地を日本に置くことは日本も戦争に加担していることである。

日本は多額の赤字国債を発行しているのであり、外国を支援する余裕はないはずだ。

多くの人にこの映画を観てほしい。とくに、安倍首相に観せたい。

憲法9条を守り抜く意思を、改めて燃え上がらせていきたい。

沖縄の基地反対の闘いが、きわめて正当なものであることを、再確認した。

映画「ザ・思いやりパート2」を観て、思いやり予算が驚くほどの金額でショックでした。日本人は思いやりを米軍に出すことによって、戦争の加害者になっていることを自覚すべきだと思います。

民主主義を壊す安倍政権の退陣を、 地域からの力で

木村 泉 茨城県平和委員会事務局長

自民党と公明党は、維新や希望の支援を受けて総力をあげた9月の沖縄知事選挙で大敗しました。その後10月14日に行われた豊見城市長選でもオール沖縄推薦候補に敗北、君津市長選では無所属新顔女性候補に敗れました。両市とも保守地盤が強い市ですが、自民党分裂選挙の様相でした。

10月28日投票の新潟市長選も同様の構図でしたが公明党は自主投票を決め、5野党統一候補に追い詰められた自民候補がかろうじて当選しました。

11月21日の那覇市長選挙では、沖縄県知事選挙と同様の「与野党対決」でしたが、ダブルスコアに近い3万7千票の差をつけ、オール沖縄が勝利しました。

■「接戦」のはずの沖縄知事選。投票終了直後に玉城デニー氏「当確」出る！

沖縄知事選は9月30日に投開票され、亡くなった翁長前知事の遺志を継いで、辺野古基地反対を掲げた玉城デニー氏（58歳）が初当選しました。数千票差という接戦と見られていましたが、BS朝日は午後8時の投票終了直後に、フジテレビは「午後9時53分、開票率9.4%」の時点で「当確」を打ちました。

結果はオール沖縄の玉城デニー氏は396,632票（55.1%）、自公維が推した候補は316,458票（43.9%）と、約8万票の大差がつきました。有権者数は1,146,815人、投票率は63.24%（前回64.1%）でした。毎日新聞・琉球放送による「期日前投票」の出口調査で、無党派層の69%（相手候補28%）、女性有権者の63%（相手候補35%）が玉城氏に投票し、公明党支持層の32%（相手候補68%）が玉城氏に流れました。

■自公勢力による選挙の「勝利の方程式」は破られた！

知事選において、自公一体の「勝利の方程式」（徹底的な争点かくしと国主導の経済振興のみの訴え・権力と金力と信仰による水面下での締め付け＝宗教活動や事後確認による期日前投票の強制）による自公総力戦を、オール沖縄が打ち破ったことは大きな意味があります。

沖縄知事選で創価学会の会長がじきじきに沖縄に乗り込んで選挙戦を指導しました。しかし3割以上の創価学会員がオール沖縄の玉城デニー候補に投票しました。創価学会本部が地方の会員の声に耳を傾けず本部の意向をゴリ押しするなら組織が持たない、という話も出ています。

自民党総裁選では地方が安倍一強に反発している構図が明らかになりました。来年7月の参院選は、野党が全国32の「1人区」で野党統一候補の擁立を協議しています。現在自民党内に1人区の改選議員が31人であることを考えると、野党統一が実現するなら（実現させなくてはなりません）、市民と野党の連携と同時に私たちの草の根の運動で、国会内に自民党単独過半数割れという大きな変化を作り出す可能性がますます膨らんでいます。

賛同人お誘いパンフを同封しています。

13周年のつどいで確認した今後の目標は ①3000万署名は早期に4000筆をめざしましょう、②憲法9条の会つくばの賛同人数は1100人をめざしましょう、です。今回の結に賛同人お誘いパンフを同封しました。ご家族やご友人などにお声を掛けていただき、憲法改悪を阻む草の根の力として賛同人を増やして下さい。

賛同申込み書はFAX029-856-2286へ送付して下さい。会のHPからも加入手続きができます。http://peace.arrow.jp/tsukuba2/



当会では毎月第3日曜日に定例署名、9日に9の日署名を行なっています。その他、「戦争をする国づくりNO@つくば」と共に、毎月3日「アベ政治を許さない」スタンディングと署名を行ないます。

定例・ 9の日署名

「安倍9条改憲NO！ 署名は続く」
▼昨年11月から取り組んだ3000万署名。猛暑の9月は夕方から、秋風の吹く10月からは12時～13時、アルス前に場所を戻して署名活動を続けました。10月には久しぶりに荒牧さんの叙情歌が流れる中での署名となりました。子ども連れの家族が座り込んで聞き入っていました。9月30日は第3次集計の日。しかし、今になってもまだ、署名総数は公表されていない。

自民党総裁として3選を果たし、改憲に前のめりな安倍政権だが、なんとしても3000万署名を達成し、改憲を阻止し、安倍政権を退陣させるべく、街頭署名だけでなく、戸別訪問にも取り組みつつ、もう一息頑張ることにしたい。市民が動けば、政治は必ず変えられると信じて。(署名担当)

3000万署名 戸別訪問の報告 梅園・桜ニュータウン 二の宮・松野木、春日

▼「九条の会」からの呼びかけにこたえて、9月に梅園、桜ニュータウン、二宮、松の木地域で地元の賛同人、世話人を中心に戸別訪問で署名を集めました。梅園は、9月2日、9日の両日曜日、2人で組をつくり、2グループで地域を分担して回りました。日曜日でも不在の家庭が半数以上あり、対話できたのは両日で100軒足らずでしたが古くからの顔見知りの人たちが多いところでは反応がよく48筆の署名が集まり、後日ポストに届いた分を含めると50筆以上になりました。しかし自治会に未加入の若い世代の住む戸別住宅では、訪問自体を厳しく拒否されるケースも多く、若い人たちとどう繋がっていけば良いのか、今後の大きな課題を感じました。

▼桜ニュータウンは9月8日に行いました。参加された方からの報告によると、不在の家庭は少なく地元で年金者組合や自治会の活動をしている賛同人の顔を住民の方がよく知っておられ、とても反応がよかったそうです。当日だけで38筆の署名が集まり、その後ポストなどに寄せられた署名を加えると50筆以上になったそうです。また賛同人ではない住民の方が一人で30筆以上の署名を集めて下さったとも聞きました。戸別署名は事前にチラシを配ったり等の準備が大変ですが地域の実情がよく分かり、署名をして下さった住民から励まされたりするなど嬉しい出来事もたくさんありました。(穂積記)

▼土日いずれか署名行動の日を決め、前もって呼び掛け文・チラシ・署名用紙を配布しました。9月23日は、総勢5人で二の宮4丁目と松野木地域の1戸建て住宅(それぞれ80軒弱と40件弱)に戸別訪問。3000万人署名行動を行いました。署名を用意してくださった2

「憲法9条の会つくば」の活動



◆賛同人 2018年11月15日現在

総数988名 (市内718名)

◆3000万署名 11月15日現在 3621筆

軒、後日に1軒いただきました。併せて二の宮4丁目20筆、松野木で10筆、併せて30筆でした。

▼市民アクションつくば連絡会の共同行動(9条の会つくば1人と新婦人つくば支部3人の計4人参加)として、10月27日に春日1丁目1戸建て住宅67軒を戸別訪問。署名を用意のお宅が4軒を含め、合計21筆でした。新しい住宅の若い方は、話を聞いてくれても署名は断わるという具合です。工夫が必要でしょうか？

11月23日(祝祭日)に共同行動で、春日2丁目(約120軒)を行う予定です。(野崎)

10.21 県南大集会

「10.21 県南大集会」は10月25日18:30からつくばカピオホールで開催され、参加者は約100名でした。今までの「集会とデモ行進」に変わり、今年は講演会となりました。田村武夫氏(茨城大学名誉教授)による「戦争の反省から生まれた憲法9条—日本と世界の平和を考える」というテーマでの講演でした。

安倍首相は、9条1項2項はそのまま残し、自衛隊を書き込むだけなので何も変わらないと言いますが、自衛隊を書き込むと2項は死文化し、自衛隊は憲法上の軍事組織になる。つまり、安保法制が成立し自衛隊は武力行使可能となりましたが、9条の足かせをとり除くことにより無制限の武力行使ができる自衛隊にする、これが安倍9条改憲の狙いです。参議院で改憲派議員が3分の2以上を占めている間に、すなわち来年の参院選挙前に国民投票に持ち込むことを狙っているとのことでした。

最後に3団体から決意表明があり、「3000万署名つくば連絡会」代表は3000万署名をやりきることが安倍9条改憲を阻止する力になると表明されました。(武田)

11.3 国会正門前集会

11月3日文化の日(憲法公布の日)、天気に恵まれて国会正門前集会が行われました。安倍9条改憲NO！全国市民アクションと、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会の主催です。1万8千人が集まったそうです。

主催者あいさつの福山さんは気迫を込めて。政党では来会順で、社民党、共産党、立憲民主党、国民民主党のスピーチがありました。憲法24条と平和との関係のスピーチが新鮮でとても良かったです。

また、ピースポートやカナダ9条の会から核廃絶スピーチがありました。

「憲法9条の会つくば」の幟の下に、つくばから有志の5名が参加しました。土浦から研学9条の会2名の方とも一緒しました。堀部代表の父君が、幟見て声をかけてくださいました。つくばからは、これ以外の参加もあったようです。(野崎)

国家権力の横暴と市民の抵抗のたたかい—主権者として、若者が立ち上がる

A：乱世備忘 僕らの雨傘運動

2016年／香港／128分

B：1987、ある闘いの真実

2017年／韓国／129分

Aは、2014年の香港の「雨傘運動」の79日間を撮影したドキュメンタリー。中国政府に批判的な候補者を事実上締め出す選挙制度に異議を唱え、当たり前の「普通選挙」を求めてデモに立ち上がった学生たち。催涙弾を撃つ警察に抵抗して、学生たちは雨傘を上げた。「社会を変えられると信じ、デモに加わった若者の思いを忘れない」（陳梓桓・監督）との願いを込めて、この映画は作られた。

Bは、全斗煥・軍事政権の独裁末期の韓国を舞台にした事実に基づくドラマ。ソウル大学の学生が取り調べ中に死亡した。拷問を隠蔽しようとする警察に対し、検事や記者、民主活動家らが真実を暴こうと動き出す。「痛々しいのは、良心に従い行動する人々に対する暴力である。デモの学生を殴打する。市民を水責めで尋問する。それでも救いを感じるのは、その先に韓国の民主化という歴史があるからだ」

(2018.10.1 付「天声人語」)

二つの映画に共通するのは、「政権に反対する市民への、権力の暴力的排除」の酷さ（リアルな映像！）である。そして、「民衆を分断しようとする策略」である。それでも、主権者である市民の抵抗は、不屈に続く。

Aで、若者たちは「デモは、市民的不服従だ。反乱ではない、基本的人権だ」と語る。「僕らの世代が動かないと、香港は消える」、「今までは自分のことしか考えなかったが、この運動を通して自分を犠牲にすることを知った」とも言う。さらに、香港の教育制度が質問しない生徒を作った、だから何が問題なのか分からない——

という構造も見抜いている。

（ただ、香港は「主権返還」と「一国二制度」という難しい問題を抱えている。）

Bの韓国は1987年、26年間続いた軍事政権を国民の力で倒し、民主化を勝ち取った。それは、昨年、国政私物化などで腐敗した朴槿恵・政権を倒して新政権を誕生させた「ろうそく革命」につながっている。チャン・ジュナン監督は、「小さな真実の力が集まり、大きな雪だるまになって歴史を変えてゆく」と語っている。

* * *

二つの映画は、日本の国家権力と国民の関係を照射する。辺野古新基地建設強行の現場では、暴力的で策略にまみれた政権に対して、粘り強いたたかいが続けられている。選挙による民意も、明確に示された。

ただ、今回の沖縄県知事選で、若い世代では、玉城候補より佐喜真候補に投票する人が多かったという。「沖縄の戦後世代のアイデンティティーが、日本や米国といった国家を相手にした『抵抗』を原動力に形成されたのに対し、若い世代には、戦争は嫌だけど、県民同士がいがみ合い、国家と対立する構図にも反発がある」（朝日新聞「WEB RONZA」：中原一歩氏）

基地があるのが「当たり前」という中で育ってきた若い人たちの気持ちである。けれど、「いがみ合い」を意図的に作り出したのは誰なのだろう？ それは、「歴史の真実」を学ぶことによって明らかに見えてくる。主権も自治も蹂躪し続けてきた米軍と、それに追従だけの日本政府が作ってきた沖縄の戦後史——

Bの監督は言う。「デモをする人々を見て、自分も歴史の主人公だと感じられる体験を観客にしてもらえたら」

「歴史」が「今の生活」に連なることを知ることによって、「平和」は自分たちの問題として捉え直される。

（後藤）



◆前川喜平さんの講演を成功させる会

（キックオフ集会）

日時：11月25日（日）14：00～

場所：牛久市中央生涯学習センター 中会議室

主催：憲法9条牛久の会 ＊チラシを同封しています。

◆12・8不戦のつどい

日時：12月11日（火）18：20～20：30（受付18：10）

場所：小野川交流センター 1F 会議室

内容：太田昭臣先生（元琉球大学教授）講演「知らない、知りたい琉球、沖縄—沖縄戦、占領そして基地に反対するオール沖縄」

主催：12・6不戦のつどい実行委員会



行動予定

11月17日（土）13：30～世話人会 松代交流センター

11月18日（日）12：00～13：00 定例署名 アルス前

11月19日（月）18：00～19：00 つくば連絡会宣伝行動 TXつくば駅改札前

12月3日（月）13：00～13：30 アベ政治を許さないスタンディング TXつくば駅前

12月9日（日）12：00～13：00 9の日署名アルス前

12月11日（火）18：20～20：30 12・8不戦のつどい小野川交流センター会議室

12月16日（日）12：00～13：00 定例署名 アルス前

12月19日（水）18：00～19：00 つくば連絡会宣伝行動 TXつくば駅改札前